

(4) 全体会議

議長：

ジャカルタ 都市間協力局長 ターマン・シレガー氏

ご列席の皆様、本日はどうぞよろしくお願いたします。この度、私が議長の役目を仰せつかりまして、大変光栄に思っております。また、本日の会議が参加者の皆様にとりまして実り多いものとなるよう願っております。

さて、組織委員会より作成されたプログラムを見ますと、このサミットのまとめが全体会議の主題となっているようですが、委員会の方で若干変更を加え、質疑およびディスカッションの会議を付け加えさせていただきます。参加者にお配りしたアンケートの回答を5つの分野に分け、議論を通じて助言をいただくことになっております。

(以下、議長によるアンケートの紹介)

1) 生活の質

ジャカルタ

通貨危機以降、市民が法や規則を遵守しない傾向が問題となっています。スハルト政権崩壊後の改革初期には、数年にわたって混乱状態が続きました。状態は現在回復しており、都市は治安を取り戻し、正常な状態に戻っています。更にもう一つの問題は物乞いです。通りには大勢の物乞いが徘徊しており、こちらは現在に至っても改善されていません。

クアラルンプール

標準的な生活とは何かということの問題としています。クアラルンプールは生活の質を重要なテーマと見做しており、国際的な基準についての議論が必要であると考えます。

オークランド

都市開発の急成長による影響で、郊外から都市部へと質の高い生活が移行しています。

シンガポール

次の世代に快適な住環境を引き継げるよう、人口増加率に応じた居住施設を提唱します。

ウルムチ

冬期に暖を取る為の手段として行われる森焼きが問題に上がっています。これは大気汚染の原因となり、本市に深刻な問題をもたらしています。エネルギー資源問題の解決に向けて、参加国の皆様から早急に提言をいただきたい。

ウラジオストク

排水処理施設の問題と、都市の廃棄物管理システムが質・処理能力共に不十分な点が目立っています。

福岡

この13年間経済成長のめざましかった福岡市ですが、大気汚染、水質・海洋汚染などの環境問題が浮上して来ました。この問題の解決に向けて、サミット参加都市の皆様と技術面での協力体制が必要になっています。勿論、日本国内の各都市においても国際的な問題でもある大気汚染、水質・海洋汚染などへの取組みは真剣に検討されております。

多くの都市が直面している問題ですが、都市の人口増加に伴い、公衆衛生、交通、治安などの問題が発生しました。

2) 文化及び伝統の復興

ジャカルタ

植民地時代からの建物を含む夥しい数の都市の遺産は、現在のところきちんと保存されているとは言えません。観光という目的でこのような遺産を見た場合、歴史建造物は状態良く保存されれば一つの財産になります。もしジャカルタを訪れることがありましたら、ゴタル地区に足を運んで下さい、多くの建物はその保存状態の悪さから綺麗なものには見えないことに気づかれるでしょう。市内のこうした建築物は、状態が悪いまま所有者が取り壊しをするまで放置されています。

クアラルンプール

社会の発展を通じて文化的な共存をどのように維持するかが問題になっています。

オークランド

都市の刷新の取組みと多様な文化の一体化を基調とした場合の、果たすべき責務と協力態勢に焦点をあてています。

シンガポール

文化的な特徴のある地域での活動が消失するリスクと、加速する開発との間に生じる軋轢の問題があります。

広州

都市開発と文化遺産保護におけるバランスの取り方と、グローバリゼーションの流れの中で伝統価値の保持をいかにして行うかが課題です。

バンコク

新しい世代は「植民地主義政策の把握」問題に直面しており、バンコクの代表団は細かな説明を迫られています。

3) 観光の発達

ジャカルタ

外国からの観光客獲得のために多大な努力を払っていますが、1997年に起きた通貨危機以来、観光客招致の努力はあまり成果をあげていません。これについては更なる取組みを続けています。

クアラルンプール

健康、スポーツ、教育に関する観光を促進する必要があります。また、観光客を呼ぶためにもクアラルンプールの治安向上に関する対応策が必要です。

オークランド

観光のためのインフラ構築および地域ごとの特色を活かした観光の組織調整は、雇用市場や団体観光などを活性化し、人と人との温もりある観光を促します。

シンガポール

エコ・ツアーや文化・健康に関する観光の開発に的を絞っています。

北九州

日本国政府はここ2、3年の間「Visit Japan」キャンペーン立ち上げています。それぞれの都市が政策と戦略を練らねばなりません。またこのサミット滞在中、我が国からの参加都市代表団はタイのホスピタリティに初日からとても感心しておりました。タイの心温まるホスピタリティを日本に持ち帰り、タイを訪問するように人々に勧めたいと思います。

広州

アジア太平洋諸国がこの地域への観光を促進させるための協力関係を、どのように強化するかが重要であると思います。

バンコク

この分野の企業活動へのコントロールをどのように行うかを考えています。

4) 教育開発

ジャカルタ

ジャカルタ市は小・中学校の義務教育の提供に非常に強く関与しています。しかし、家族や親が子供のために毎月支払いをしなければならない場合が未だにあり、このプログラムは現実的には成果をあげていません。

オークランド

外国から来た生徒を歓迎する大切さを理解できますので、国際留学は重要だと認識しています。オークランドは質の高い初等・中等教育を提供しています。

バンコク

私学教育への助成に関し中央政府をどのように説得するかを考えています。

広州

私学教育の質をいかにして保証するか、また市行政が成すべき事がポイントとなっています。

5)都市の経済発展

ジャカルタ

統計により民間部門の果たす役割の大きさが明らかになりました。長い間、都市開発の出資率は民間部門が全体の97%にもなっている一方、市の予算はわずか3%です。つまり、民間部門とコミュニティのそれと比べると、ジャカルタのインフラにおいて市が果たしている役割は、それ程大きくないということになります。

オークランド

チャンスを生むための共同企画、交通プロセスなどにおける経済革新、培った知識を基盤にした経済を考えています。

シンガポール

官民の提携が認知されいくつかの都市ではしっかりと確立された取組みが行われており、多くのプロジェクトが実施されていますが、それがより専門的な提携なのか、出資プロジェクトのための代替的な形の一つなのかといった民間と行政の提携の目的についても考慮しています。

ウルムチ

都市の発展を促進するため、ガス、石油などの天然資源をいかにして最大限に活用し有益に利用するかがテーマです。

バンコク

官民の提携を更に進めるにはどうするかということです。

議長

さて、共通の問題を解決に導けるよう、ここで経験やアイデアを共に分かち合いたいと思います。それは、それぞれの都市で同じ問題を抱えているはずだと確信しているからなのです。培ってきた経験は個々で全く違うとは思いますが例えば都市化などは多くの地域が直面しているでしょうし、場所によっては同じ問題を深刻なものと捉えている所とそうではない所があると思います。今まで挙げられた5つの課題について皆様の意見や経験を伺いたいと思うのですが、いかがでしょうか。

ただご注意願いたいのは、組織委員会としてはこの会議で何らかの合意や解決策を導き出すつもりはないということです。だからこそ、皆様にこの討論の場で幅広く発言をしていただきたいと思います。発言をされる方は、挙手をお願いいたします。後程、議論を充実させるためにも他の参加者の方々からご意見や経験に関するお話を募ります。

バンコク市・アピラック知事による追加発言：

特に2日の間に行われたディスカッションとプレゼンテーション、アンケートに記入していただいたご意見について気づいた点を申し上げたいと思います。拝見して、まず申し上げたいのは、各都市の開発状況はその都市に住む人々が、彼らが有している生活の質のレベルというものをどのように捉えているかを実に良く示しているということです。例えば、ここバンコクでは我々はまだ基本的な生活の質に対処しなくてはならない状態です。他の都市と比較すると、市民はほぼ毎日交通渋滞に巻き込

まれています。この段階を既に超えている都市もあるでしょう。シンガポールとは異なり、大量輸送システムについて十分な対応が整っている都市もあることでしょう。そのため、生活の質を定義すると自ずと都市間の差が如実に現れるのです。

次に、もしかしたら皆が共通の問題と経験を分かち合うことが可能かもしれません。例えばバンコクとジャカルタでは、郊外から都市部へと人が流入したことで同じ状況に直面しています。路傍で調理をしている人々が目に入ると貧富の差の大きさを痛感しますし、同様に高層の高級分譲マンションの隣ではスラムに居住する人々がいるという光景も目にします。私が申し上げたいのは、このサミットで他都市の経験を教訓とし、それぞれ本来なら何年も費やすはずの学習過程を短縮できるのではないかということです。私にとってこれは大変有益なことです。

生活の質という点では、オークランドのように生活水準がより高いと思われる他都市と比較してみると、そこでは市民の素養と技術をどのように向上させ、維持し、助成したのかという点により注目しています（人間の質と言えます）。つまりそれら都市の生活水準では、市内のインフラなどバンコクに未だ残っている生活の質にまつわる基本的な問題は既にクリアしているということです。

私は未だ初期段階にある都市（新都市）に特に注目しています。バンコクも多くの人口を抱える大都市なのですが、都市の急速な発展により生活の質という領域で別の問題が発生してきました。このサミットで我々が提案しているアプローチは、都市の拡大を継続することに焦点を当てているというよりも、むしろ「持続可能な都市再開発」なのです。要するに、以下の2つの手段を用いて再度我々の傾けるべき努力の焦点を定める必要があるのです。

第一に、この新しい都市化のコンセプトを通じて、多方面からの参加を一体化する。

第二に、プロセスを早めるためとして官民の間の協調関係を模索する。

しかし、おそらく国家政府の予算配分による制限の問題にぶつかると思われます。

このサミットで参加都市すべてが、本来であれば達成に何年もかかるような学習プロセスをお互いに早める手助けをすることが可能です。

議長：

ご意見、誠にありがとうございました。生活の質は自治体ごとに異なることがあるとのお話でした。とはいえ、そこには有益なものもあるかもしれないと。他にご意見がありましたらどうぞよろしくお願い致します。

議長：

今回は日本以外の都市が環境問題や環境保護について学ぶ大変良い機会です。

我々は昨日から今朝までに、発表されてきた件に関してより綿密かつ実際的な議論を望んでいます。先の2つの分科会中は、あまり活発な質疑が出ませんでした。そこで参加者の皆様からもっと質疑が寄せられるとありがたいのですが。是非この機会により多くのアイデアやご意見、ご経験などを提示

して下さるようお願いいたします。

議長：

ウルムチは資源に関して非常に興味深い問題を提起してくれました。同じ問題を抱える他の参加都市にも参考になり、この問題に答えを出せるかもしれません。おそらくウラジオストクの代表の方なら助言をいただけるのではないのでしょうか。

ウラジオストク：

ウラジオストクは日本海に面しているため、同じ問題に取り組んでいます。産業上の潜在性から、漁業、食品加工分野、環境問題なども特に重要視しています。これらの問題は都市住民の生活の質に影響を与えるばかりではなく、森林、海、島などウラジオストクの沿海領土における自然環境にも影響を与えます。新たな産業発展は土地や天然資源を必要としますし、そのことが森林や土壌、その他天然資源に悪影響を及ぼす結果にもなるのです。そのため、ウラジオストク市行政がまず手始めに着手し、目下実施中のプロジェクトの一つは植林や海浜の浄化など都市部における環境産業の発達です。

もう一つ重要な問題として、瓶から製品までの完全なリサイクルプロセスも含む廃棄物管理の問題にも取り組んでいます。こうした問題は市民に快適な都市環境を提供する上で根本的な課題と言えます。

議長：

ここで文化及び伝統の復興に関する釜山市の意見をご紹介させて下さい。釜山市では新しく建設される建物と歴史的な橋が物議を醸し、争点となっています。古くから存在する影島という橋を、その近辺にビルを建設するため撤去するという問題に直面しています。影島橋は取り壊され、ビルが建設されることになっています。

議長：

オークランド市の意見を伺いたいのですが、いかがですか。

オークランド：

オークランド市は比較的クリーンで緑もあります。活気に満ちた都市であり、刺激的な地域です。多様性も増しています。我々が直面している問題は多くの課題と絡み合っておりますが、比較的人口が少ないという理由から我々の経験は若干スケールが小さいものではないかと思えます。とはいえこの事こそが、ある意味、オークランド市がさまざまな課題と取り組む政治的手段を発達させる良い機会を与えてくれたとも言えます。

例を挙げますと、オークランド地区の人口は現在130万人なのですが、急激な増加を続けているため、ごく近い将来には230万人が住むエリアとなることを見込まれています。現在のオークランド地区に起こっている事象は、多くの課題をつなげて取り組む必要があるのです。つまり、地域の発展への対応の問題、環境への対応の問題、排水汚染や大気汚染への対応の問題、効果的な輸送戦略の展開、それと同時に都市の広場にも注意を払う必要があります。住宅が密集するにつれて、ますます郊外型生活から都市型生活への移行が加速します。オークランドでは、新たな都市化、活発な成長動向の促進、

縦横な開発や伝統的な近隣関係の発達などに基づいて2つの政策機関を設けました。これらの戦略は基本的に土地活用戦略や輸送戦略とリンクする人口増加戦略だったのです。つまり、戦略では新規開発は緑地の30%、残り70%は既に開発されたエリアで行われるよう決定したのです。また新規開発は、公共の移動機関を結ぶ地点の周辺に集中し、多目的な開発を良しとしないことを決定しています。これらによりビジネスチャンスや雇用の機会が浮上し、住居の密度も中程度となります。また多くの人々が職場と住居の距離を一段と縮めることも目的としており、今まで自家用車に依存していたが、公共交通機関を優先課題とし、主要な環状道路を完成させることで個人の車ばかりではなく公共の交通手段も利用するという選択肢を与えることにしたのです。現在これは重要な戦略となっており、人口増加への優れた対応への認識にもつながっています。我々は経済発展とコミュニティの開発を異なる地区で行う必要があります。つまり、オークランドの地域経済成長戦略は、現在ではその地域成長戦略や、地域の輸送戦略と結びついたものなのです。そして開発の選択に対応する中で我々が気づいているのは、更なる発展を遂げてもらいたい特定のコミュニティには、これでは不十分だということです。どれだけ発展させるのかということを示し、そのための調整をしていただきたいのです。その代わり更なる開発の受け入れと引き換えにその地域における物理的・社会的インフラへの投資が先行するよう、我々は近隣地区やコミュニティとの折衝プロセスを考えました。オープンスペースやコミュニティセンターの供給で成長のペースも増し、開発による利益と不利益の釣り合いがとれるようになるでしょう。

オークランドが学んだことは、計画を立案し、このような計画がありますと言うだけでは不十分であり、互いに意見を言うことが必要なのです。その代わりにコミュニティの創造するために地域の人々も加わってもらうのです。この会議のテーマにある参加に対する必要性の強調というのは、まさに我々がオークランドで実践する中で最も大切なことです。開発計画を行うには机上の論理では不十分だということを実感しています。必要なのは時機を得て、事業を実行する優先順位を決定するだけの判断力を養うということなのです。例えば輸送分野では、インフラにおいて無視することのできないバス、鉄道、フェリーといった公共輸送の分野を優先的に投資対象としています。同時に主要な環状道路の完成も、中央政府が今後9年間・16億2000万ドルに及ぶ出資を行い目下進行中です。

わたしたちの自覚に基づいて、計画的にコミュニティを発展させています。例えば学校の休暇期間には車道の規制が緩み、自動車やトラックはかなりスピードを上げます。そこでいっそ市では「ウォーキング・スクール・バス」という一種の集団登校を採用し、保護者指導のもと児童達のグループを歩いて登校させるよう勧めました。我々は通学路に関するプランを練り続けている最中で、交通が渋滞する時間帯を避けるためにこの「バス」の時刻表や路線について話し合っています。

オークランド港は中期～長期のトラック輸送から鉄道輸送へ、また中距離輸送から長距離輸送への切替地点で、オークランド港に到着するコンテナのうち90%が鉄道で移送され、ニュージーランド国内の各所に届けられます。

このような革新的アプローチは民営・公営の企業が共通の目的を達成するために住民との協議を行う必然的に含み。少なくとも、我々は課題に対して独創的な取り組みを行っていることを認識しています。路上の大気汚染はますます深刻になるでしょうし、そうした道路から流出する重金属成分が水路に最

も有害なダメージを与える原因にもなります。

こうした問題に対処するためにも、オークランド市はその取組を発展させ、統合に全力で取組みます。アジア諸国が培った経験を学ぶと共に、そうした国々よりも若い都市の視点から何か貢献ができれば、非常に喜ばしいことだと思っております。

議長：

先に述べましたように、異なる環境を持つ都市に対して同じ方法や戦略の行使が功を奏すとは言えませんが、フォーラムにおいて様々な国の経験と意見交換を行うには良い機会だと思います。もしも何年後後に似たケースの問題が起きたとしたら、この場で得たことが役に立つかもしれません。

ジャカルタ スティヨソ知事による追加発言：

実はお願いがございます。お話ししましたように、ジャカルタは危機的な状態が続いています。32年にわたるスハルト政権崩壊後、人々は法や規則の遵守を行わない傾向があるのです。危機はあらゆる分野に及んでいます。もしかしたら地方分権が始まってから中央政府に問題を提起した福岡のような都市と経験を分かち合うことができるかもしれません。この国の貧困レベル、あるいはその他のレベルは地方自治体の大きなエゴにまで肥大しており、そのためジャカルタは周辺都市にかなり依存した状態なのです。一例を挙げますと、ジャカルタは約40%が海面下にある土地ですので洪水問題は大きな問題です。そのため特に緑化などの環境保護をどのようにするか、周辺都市からのサポートが必要なのです。これは我々にとっては切実な問題です。この問題を国家政府に提言したのですが、ジャカルタ周辺都市からのサポートに関する規定が未だ明確に打ち出されていません。ジャカルタは地域都市の中でも重要な位置を占めるため、我々の都市人口は夜間には800万人、昼間は1200万人となっています。そこで同じ問題を経験した都市がございましたら、人々の問題、開発やインフラの問題についてもぜひ意見を分かち合えればと思います。限られた予算の関係や人口の多さで難しい面もあります。また用意なくてはならない設備もあるもののなかなか実現が難しい状態です。解決を迫られている問題は山積しているのですが、なにぶん予算が限られています。他の都市が得た経験に倣うことができれば非常に喜ばしいことだと思います。ありがとうございました。

議長：

スティヨソ知事は市政における協力関係に関し、ご意見や経験談を求めています。知事が申し上げましたように、ジャカルタは都市の抱える問題の解決のために周辺都市に頼りすぎている現状があります。周辺都市との対応に関して他の参加都市からご意見・体験談をいただければと思います。

バンコク市・アピラック知事の意見：

おっしゃられた問題はバンコクと実に似ていると思います。バンコクとジャカルタは、特に昼間の人口と夜間人口と差などの複雑な要因があるため、現在我々が行っているのはバンコクと、行政の責任者が中央政府を通じて仕事を行うバンコク周辺都市との協力作業です。我々は月一度会議を開き、共同作業を行っています。この中では、朝晩に郊外に住み、バンコクの職場との間を行き来する大量の通勤客が引き起こすラッシュアワーのひどい混雑など多くの問題を確認しています。現在バンコクでは例えば商業区域、居住区域、環境保護区域といった新しい形の都市計画に取り組んでいます。と

ところが、これらをつなぐエリアは同じカテゴリーには入りません。そのため、継ぎ目のない運営と管理を確実にを行うためお互いに話し合い協力することが必須なのです。

もう一つ分かりやすい例と言えば北部の各県を流れるチャオプラヤ川です。この川の水質を守るためには非常に密な共同作業をする必要があります、共通のマスタープランに則り同じ方向性を持って作業を行うよう共に活動しています。

かつてはこうした他県とバンコク市にコミュニケーションはなく、とりわけ行政レベルで協力し合うのが難しいことでした。密接な共同作業の中で会議を重ね、同じ問題を抱える団体同志で小委員会を結成すれば、共通の問題をお互いが望む方向で解決し多くの利益を生むことができると思います。

クアラルンプール代表より追加発言：

クアラルンプールから参りましたニックと申します。バンコク市のご意見に少々付け加えさせていただきたいと思います。クアラルンプールでは、同様に我が都市と周辺地域の境界エリアの開発で問題を抱えております。この問題は10年ほど前から浮上してまいりました。最近、2020年完了に向けた最新の再開発計画の間に、とりわけ他都市との境界の開発で調整を行う組織が必要となりました。この計画を実行するために政府の関与と協力も仰がなくてはなりません。政府に採用された方針の一つは、周辺都市およびクアラルンプールのさまざまな官庁をメンバーとして構成された組織を形成するというものです。さまざまな官庁が参加し協力しあうことで、境界開発の問題が解決できればと願っております。

議長：

隣合う都市における協力においては、相互の協調と努力が接続した都市での問題を解決するとのお話でした。

このフォーラムに発言していただいた方々にお礼を申し上げますと共に、お話がご列席の皆様のお役に立つことを願っております。

本日はありがとうございました。

*福岡市長による提案

バンコクで開催されたサミットに参加したことで、タイは文化の重要性を強く認識していらっしゃると感じました。福岡市はサミットに2つの提案をしたいと思います。

①生活の質

地方政府の技術協力を促進するためのサミットでの枠組み作りを提案したいと思います。

日本の都市は過去十分なインフラ整備がないままに急速な都市化を経験しました。その結果、大気、水、海の汚染など多くの都市問題を抱えました。しかし、日本の都市は過去20-30年かけて克服してきました。環境問題を解決してきた北九州の取組みはそのモデルのひとつです。

日本には約50の主要都市があり、それぞれが都市問題について経験豊かな有能なスタッフを有し、ノウハウや技術の蓄積がありますが、何よりも他都市に対して問題を解決するため、ひいては住民の生活の質が向上するために協力する意思を持っています。

各都市が持つそれらの強みを生かすために、中央政府も含めた枠組み作りが必要です。福岡市は中央政府に対し、枠組み作りのために働きかけています。国レベルで技術協力の枠組みを作り、実際のスタッフは地方が派遣するというものです。そのようなシステムが、都市が技術協力を進めやすい環境を生み出すのです。

他の参加都市にもそれぞれの中央政府に働きかけ国と連携したシステムづくりが必要だと思います。そういった都市間協力の取組みが、市民生活の質の向上にも結びつくと考えます。

②文化と伝統の再生

文化は、観光を含めた産業おこし、産業振興に重要な要素です。私たちはそれぞれの国、地域が持つ文化の独自性を再認識し、またそれをどのように洗練させていくかを考える必要があります。

そこで、この文化の独自性の再認識と文化を洗練させていくことの重要性をサミットの共通テーマとすることを提案します。

(5) 閉会式

バンコク知事 アピラック・コサヨディン

2004年12月1日

本サミットの最後に、こうして、またお話する機会をいただきましたことに、感謝を述べたいと思います。また、この場を借りまして、サミットの成功と素晴らしい成果に対し、心よりお祝いの言葉を述べさせていただきます。

主要協議について、「バンコク宣言」は持続可能な都市の再開発に向けた「新しいアプローチ」を表明するものです。我々が今後も取組みを続けることにより、制御しがたいと思われる都市問題の処理にも必ず変化があると確信しています。また、我々が努力を怠らなければ、グローバル化や相互依存の成果が我々の都市できっと花開くものと確信しています。

この機会にもう一度、この2日間に我々が成し遂げたことを簡潔にまとめたいと思います。

まず、我々は従来通り、都市が急激な経済成長を遂げ、同時に人類が発展する素晴らしいチャンスが生まれるという共通の事実を改めて繰り返しました。しかし、この現象は交通、住居、環境、公衆衛生、教育など多面的な都市問題が、歴史的に前例のないほど急激に増加したことに結びついているのです。

また、グローバル化と相互依存が「新しい都市性（ニューアーバニズム）」の原動力になるとすれば、様々な問題は我々だけでは解決できないということも認識しています。都市や市民の密接な協力と連携がなくては、都市と周辺地域の公正な成長や持続可能な開発、ひていは市民すべての生活の質の向上は望めないということです。

我々の「新しい都市性」のコンセプトには、それぞれの都市が持つ独自の伝統や文化について共有する価値観が反映されています。伝統的な生き方（暮らし）は知恵の宝庫であり、グローバル化や相互依存関係の悪影響により、それが消し去られるような事があってはなりません。グローバル化により普遍的な価値観が広がっていくという理解に対し、生活様式や多様性が持つ美しさまで普遍化されないように注意するべきでしょう。それぞれの都市に異なる伝統や文化があるということが、我々が健全な方向に進んでいるか、おかしな方向に向かっているかを示す一つの典型的要素なのです。

我々の連携関係が強まり、それぞれの都市に合う最良の行動規範を模索する上での知識や経験を我々は共有してきました。我々が挙げる「新しい行政運営」では、意思決定過程での官民連携や住民の参画の重要性を重視しています。つまり、幅広い参加型プロセスで住民や企業、コミュニティが積極的に参加する行政により特定されるそれぞれの都市特有の可能性や問題を重視するのです。

サミットの始めにお話しましたように、都市を運営する最良の方法についてはこのサミット開催の先んじて、特に前回のサミットですでに話し合ってきたことです。しかし、今回の我々の取組みは都市問題の解決や都市生活の質の向上という共通の目標に向けて既にある原理や様式に付加価値を加

えるものだと思います。

個人的に申しまして、本サミットで経験したことは印象深く、価値あるものです。就任してから日が浅いとはいえ、ここにお集りの皆様にお会いし、親交を深める素晴らしい機会に恵まれたのは、私にとっては時機にかなったことでした。我々の建設的な協力関係が強くなるにつれ、皆様との友情関係も発展していくものと思います。また、自分の政策を見直し、またバンコク市民への約束を果たすために、皆様とアイデア交換する機会をいただいたのは非常に意義深いことです。

バンコクについてお話いたしますと、知事に立候補した時から、バンコクをもっと安全で発展した、清潔で便利な都市にすることが私のビジョンです。本サミットの成果により、このビジョンを実現する上での様々な価値観を見出すことができました。バンコクは、今や魅力的なビジネスロケーションというイメージが広がりつつあります。バンコクは、企業活動をサポートするサービスやインフラ整備に向けた戦略的投資、我々の比較優位にあるマーケティングにより、世界経済においてさらに重要な役割を果たすようになると期待されます。これは、市場原理や官民連携、関係者、地域社会の積極的な参加により達成できることでもあるのです。より基本的なことは、生活していくための雇用、ビジネスの機会、資金の調達、そして職業訓練などを受けるべき住民の経済的福祉です。行政は、時機に合う適切な改革と新しい資金調達システムを確保し、予算を編成すべきでしょう。

経済の領域から離れてみて、差別や偏見、無知がなく、市民すべての社会的福祉を十分、かつ欠けることなく全体的に持続させることは等しく重要なことです。これはすなわち、治安、健康、教育、インフラ、環境、文化など生活の質に影響するすべての分野で、意思決定プロセスに、住民が完全かつ等しく参加し、総合的に評価（アセスメント）を行うことを指しているのです。

たとえば教育においては、私は国家レベルの教育の評価や基準設定に関わってきた経験から、教育を受ける機会、内容や施設、人材の質をあらゆるレベルで継続的に高め、持続させることがいかに重要かを実感しています。それは生涯続く教育の質であり、教育に関する政策で特に重点的に取り組むべき点です。教育と学習の質の向上には、テクノロジー、特に IT を活用していくべきでしょう。

私の政策において優先される分野は、他に環境の質の改善、観光の再開発、タイ式生活の伝統と文化の保存などがあげられます。これらの分野は、持続可能な都市の再開発に向けた「新しいアプローチ」の核として取り入れられています。

閉会の前に、ここに我々が集まった理由をもう一度強調したいと思います。私の最後の言葉は、本サミットの成果である「バンコク宣言」にもはっきりと謳われており、都市と住民にとって次に何をなすべきかを示すものです。

我々が共有するビジョンは、都市を健全で、チャンスに恵まれ、繁栄し、安全で、高い質を持つ場所にしていくことなのです。

ありがとうございました。

3 バンコク宣言

私たちは、第6回アジア太平洋都市サミットの参加都市として、バンコクにおいて2004年11月30日から12月2日にかけて会議を行い、「持続可能な都市再開発のための新たなアプローチ」というテーマについて意見を交わし、アジア太平洋またそれを超える地域において共有される繁栄に向けてのさらなる都市間の協力への可能性を探り、ここに以下の点に関して私たちが共有する見解を要約したバンコク宣言を発表する。

1. 私たちは、都市間の緊密で親しい関係を促進しようとする良き意思を再確認した。サミットは加盟都市間におけるダイナミックな相互作用を強化し、前向きで戦略的なパートナーシップを作り上げている。われわれは、合同プロジェクトや共同活動などを含めた共通の行動計画を設定しうるような将来的な協力体制を作り出すために、2006年に開催される次のサミットに向けてさらなる協力を進めていくことに同意した。

2. 私たちは、従来のサミットにおける本質的な考え方を明確に支持した。特に現在進行しているグローバル化と相互依存の結果として、世界は絶えず変化（ダイナミズム）を経験しているため、都市はこれまでにないスピードで成長していることを同時に認識した。これらの見解に基づいて、持続可能な都市再開発に向けての新たなアプローチを継続的に見直し、修正することの必要性を強調した。私たちは、それぞれの都市の異なる強さがお互いに補う合うように、都市が有する比較優位を活用することの重要性を強調する。

3. 私たちは、行政の透明性同様に、意思決定と事業過程評価における、包括的で差別のない住民参加を非常に重視する新たなアプローチにおいて、良き統治（グッド・ガバナンス）への我々の関与を再確認した。

4. 私たちは、都市の持続的な再開発に向けて民間部門が中心的な役割を担う必要性を強調した。私たちは、効率的な官民の協力が新たな効率的経営をもたらすと信じている。

5. 私たちは、良き統治と官民協力の原則に依拠したこれらの手法を統合する一方で、私たちのあらたなるアプローチにおいて市場志向の手法の重要性も強調する。私たちのアプローチは、モノやサービスの提供、教育、健康、インフラ、環境管理などを含んだ、様々な観点における人々の生活の質を向上させるために、市場原理と競争を適用するものである。

6. 私たちは、住民にとって、より機会に満ちたまた問題の少ない共通の目標に向けて、都市間協力とともに我々自身の努力を強化することを誓った。私たちは、雇用、職業訓練、社会福祉のための公平な基盤もまた住民に提供する。

7. 私たちは、よりよい都市生活条件や経済発展のための我々の試みにおいて、戦略的な都市計画やインフラ投資を非常に重視する。この目的に向けて、私たちは環境保護と生態系の質の向上に努力する。

8. 私たちは、我々の都市が市民にとっても訪問者にとってもますます魅力的なものとなることを目指している。私たちは、それぞれの都市における観光産業の質を標準化し、他の経済計画と観光戦略を統合する一方で、それぞれ独自の伝統と文化の要素を通じてその独自性を保持していくことも我々の利益である。

9. 私たちは、異なる分野が密接に関係し、それぞれの分野の課題また分野横断的な課題の効果的経営は、都市の持続的可能な再開発のために、非常に重要であると認識している。私たちは、科学、技術、スポーツ、芸術そして文化などの異なる分野における発展戦略が将来的に新たに主導されていくことも歓迎する。私たちは、これらの分野における我々の協力を拡大し、そして、より広い地域における国際的な枠組みでの都市間交流と協力が進められるという私たちの共通の願いを再び強くする。

私たちは本日、都市間のより緊密な協力関係に向けたまた別の重要な段階を記したこのバンコク宣言において共通の見解を決意し、採択した。私たちは、このサミットで生まれた推進力を維持し、私たちの関係と対話を継続し、私たちの友情と協力のネットワークを発展させていくことを誓う。

私たちは、2006年にウルムチ市で第7回アジア太平洋都市サミットを開催する。

バンコク市 2004年12月1日